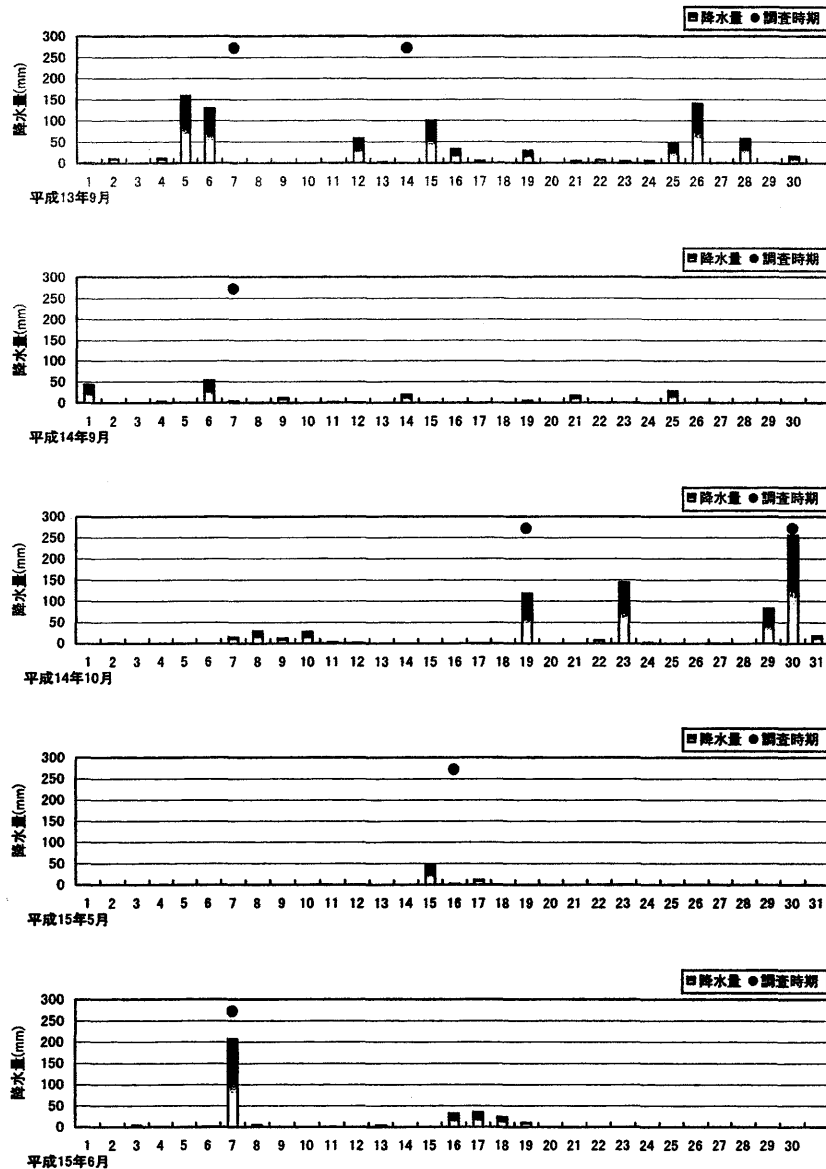


イ)降雨時

降雨時における調査時期と降水量の関係は図-6.5.1.2(4)に、水質測定結果は表-6.5.1.2(4)及び図-6.5.1.2(5)に示すとおりである。

降雨時調査は調査前日～当日にかけて、それぞれ46～256.5mmの降雨があった時期に実施しており、そのような時期における海域でのSSは日降水量100mm程度以上の場合、高濃度の濁りが轟川河口のSt.5を中心にして、徐々に沈降・拡散しながら主に北側のSt.4、St.3に広がる傾向がみられた。

このように降雨時の濁りの拡散パターンの多くは、轟川河口北側のリーフ内の調査地点で上げ潮時、下げ潮時ともに北から北西向きの流れがみられる傾向と一致していた。ただし、平成13年9月14日調査や平成14年10月19日調査には、上げ潮時でも轟川河口南側のSt.6で濁りが確認されたが、比較的強い北寄りの風が吹いていることが、一つの要因として考えられた。



注. 降水量：石垣島地方気象台における降水量観測結果

図-6.5.1.2(4) 調査時期と降水量の関係(降雨時)